

高齢者の日常着による圧迫感の実態について

斉藤 秀子・雨宮 邦子

Actual condition of pressure sensation caused by everyday clothing

Hideko SAITO, Kuniko AMEMIYA

The questionnaire regarding pressure sensation of the everyday wears was given to the young, middle-aged, and elderly female groups, and the clothing pressure of abdomen area was measured. The elderly group answered that Japanese style nightgowns are easy and comfortable to wear. The subjects of this group preferred loose-fitting, conservative clothing to fashionable clothing. In addition, they wore more clothing with elastic strings around waist and wrist than the subjects of other groups. The elderly people complained of the tightness caused by the elastic strings, and the weight of the clothing.

Moreover, the pressure sensation around the abdomen area caused by the everyday wears in middle-aged and elderly groups was greater than that of young group.

1 緒 言

従来、高齢者の衣生活については、被服の調達と選択行動を中心とした衣生活行動の現状と問題点¹⁾、高齢者の加齢に伴う身体機能の変化と被服に求められる要件²⁾、高齢者の衣生活行動特性³⁾を始めとする幅広い調査、研究が行われている。その中で、高齢者の圧迫感について取り上げた調査をみると、スカートやズボンのウエストはゆるいものを、ゴムが入っているものを好む高齢者が多いこと²⁾、スカートの胴囲のデザインについてゴムを試用してあるものを好む高齢者が多いこと⁴⁾が明らかとなっているが、高齢者の衣服による圧迫感に着眼点をおいた研究は少なく、高齢者の日常着の被服圧を測定した研究は行われていない現状である。そこで、本研究では、高齢者の快適な衣生活のための基礎的資料を得ることを目的として、若年および中高年女子の圧迫感のある衣服の着用について、ズボンやスカートのウエストや手首にゴムをいれた衣服の着用とこれに対する圧迫感について等、日常着の圧迫感についての調

査を行った。さらに、調査結果をふまえ、高齢者の衣服設計についての留意点をさぐるべく、若年群と中高年群の日常着胸部被服圧の測定を行った。本報告では、調査結果の内、高齢者の衣生活に顕著な特徴のあった項目についての単純集計の結果、および被服圧測定の結果について述べる。

2 研究方法

2.1 日常着の圧迫感についての調査

日常着による圧迫感の実態調査は若年群、中年群、高齢群の3群について行った。

若年群については、1999年、2000年11月に山梨県の短期大学生を対象とし質問票配布による調査を実施、有効回答数は158であった。中年群については、2000年10月から11月に、山梨県の短期大学の卒業生、40から50才を対象として、郵送による調査を実施、有効回答数は125、調査票の回収率は71%であった。高齢群については、1999年11月から12月、山梨県内の温泉施設において60歳以上の高齢者を対象に、聞き取り調査を実施、有効回答数は93であった。

表1 日常着の圧迫感についての調査項目

質問項目	
i 和服およびその着脱と圧迫感について	日常に和服を着ることがある お祭りなどの地域行事で和服を着ることがある 冠婚葬祭で和服を着ることがある 浴衣やガーゼの寝巻を着ることが多い 和式寝巻きはゆったりしていると思う 和式寝巻きは着たり脱いだりが楽である 20代はゆかたの寝巻を着ることが多かった 和式寝巻きのウェスト部分の紐や帯がきつくて、嫌なことがある
ii ゴムが入っている服の着用について	普段ははいているズボンやスカートは、胴回りの前や後ろ、脇の全部にゴムが入れてありますか 普段着てるブラウスなどの袖口にゴムが入れてありますか
iii 服の重さと圧迫感について	服の重さが気になることがある ウエストにベルト芯が入ったズボンやスカートはもっていない ソックスなどのゴムがきつくて気になることがある 服の胴回りのゴムがきつく感じたことがある 服の手首のゴムがきつくて気になることがある 締め付けの強いストッキングははかない 外出時は多少締め付け感のある服でも我慢する 外出時はガードルをはくことが多い 家でくつろぐ時ガードルははかないことが多い ガードルははかないが、かわりに暖かいロングパンツをはくことが多い 下着に締め付けの感じがあっても、ウエストが少しでも細く見えるほうがよい ブラジャーは締め付け感があるので付けない
iv 皮膚と服による圧迫との関連について	皮膚が乾燥しがちである ガードルやブラジャー等の下着がきつくて、皮膚がかゆくなったことがある 服のウエストのゴムがきつくて、皮膚がかゆくなったことがある 服の手首のゴムがきつくて、皮膚がかゆくなった事がある 服の素材がごわごわして、皮膚がかゆくなったことがある
v おしゃれに対する意識について	スカートよりズボンを好んではく 自分の好みのデザインであれば多少の着心地の悪さは我慢する 動きやすい伸び縮みする素材を選ぶようにしている 周囲の人とできるだけ同じ服装がよい おしゃれにいつも気を配るようにしている 流行にとらわれず長く着られる服が好きである 日常生活の中で服装のことを話題にするほうである

調査対象者の基本的属性としての調査項目は、年齢、身長、体重、就業状況、家族構成、被服購入者、被服の入手方法、被服着脱状況、被服購入時の重視すること、についてである。

高齢者の日常着の圧迫感についての調査項目は、表1に示すとおり、高齢者の衣生活の現状を背景に次の5つのグループからなる計35項目とした。

- i 現在の高齢者は若、中年期に和服の着用経験があること背景に、和服およびその着脱と圧迫感について
- ii 高齢者用衣服としてウエストや袖口にゴムが入っている衣服が多く販売されていることを背景に、ゴムが入っている服の着用状況について
- iii 服の重さと圧迫感について

iv 高齢者の皮膚の乾燥とかゆみが問題となることを背景に、皮膚と服による圧迫との関連について

v おしゃれに対する意識について

このうち、i、iii、iv、vの項目についてはそうである、どちらともいえない、そうでない、の選択肢を設け、回答とした。iiの項目については多い、半々である、少しである、まったくない、の選択肢を設け回答とした。

iからvの項目について、若年、中年、高齢群別に選択肢別の解答割合を求めた。また、これらの項目の、若年、中年、高齢群、各組み合わせについて独立性の検定を行った。

2. 2 日常着の胸部被服圧の測定

2001年10月から11月にかけて、若年群として山梨県の短大生30名（平均年齢19.4才）中高年群として山梨県内の温泉施設において、施設来場者30名（平均年齢66.2才）について、そのとき着衣していた日常着の被服圧と、圧感覚を測定した。

被服圧の測定には、エアパック法（エイエムアイテクノ製接触圧測定器）を用い、着用していた日常着下衣の胸部前、胸部脇、胸部後面の被服圧を測定した。圧感覚申告は下記のとおりとした。

- 3 非常にゆるい
- 2 ゆるい
- 1 ややゆるい
- 0 ちょうど良い
- －1 ややきつい
- －2 きつい
- －3 非常にきつい

3 結果および考察

3. 1 日常着の圧迫感についての調査

1) 調査対象者の基本的属性

回答者の内、若年群の平均年齢は19.2才、中年群の平均年齢は47.3才、高齢群の平均年齢75.4才であった。

表2に調査対象者の就業状況、図1に被服購入者の結果を示した。高齢者の場合、自営業または仕事をしていない割合が高い。高齢者の被服購入は自分と回答する割合が高いが、子や孫と回答する割合もほかの群より高い傾向が見られた。被服の着脱はいずれの群でも全員一人でできるという回答であった。高齢群は健常者であるため、衣服の

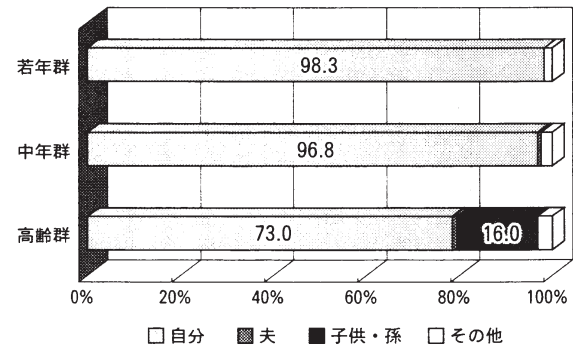


図1 被服購入者

着脱については特に介助を必要としないが、服の購入については一部、子や孫による場合があり、一般的衣生活状況にある回答者であると推察された。被服着用時に重視することは、若年と高齢群はサイズ、中年群は素材、価格、着心地、洗濯・手入れと答える割合が高い傾向を示した。

2) 高齢者の日常着の圧迫感

日常着の圧迫感についての調査結果について、独立性の検定を行った結果、すべての項目に1%の水準で有意差が認められ、各項目の回答比率に年齢間の差があることが示された。

和服およびその着脱と圧迫感について、年齢差が顕著である項目について、図2に示した。若・中年群はゆかたやガーゼの寝巻きをきることはないが、高齢群の場合1割強の回答者が着ることが多いと答えている。和式寝巻きの着脱について高齢群は楽であるという回答が多く、また、ゆったりしているという回答も多い。また、高齢群の12.0%が日常に和服を着ることがある、71.0%が冠婚葬祭で和服を着ることがある、77.0%が20代はゆかたの寝巻きを着ることが多かったと回答し、若いころ和服や寝巻きの着用経験のあった高齢者が一部は日常の場で、多くが冠婚葬祭で和服を着るということがわかる。一方、若年群の23.0%がお祭りなどの地域行事で和服を着ることがあると答え、これは、平成2年ころより始まった若年層の浴衣ブームによるものであり、若年層にとって、浴衣に代表される和服は夏のお祭りや花火大会などで着るものとしての位置づけられていると考えられる。本調査対象者としての若年群は未成年であり、成人式、結婚披露宴などの冠婚葬祭の場を経験していないこともこのような結果となった一因と推察される。

表2 調査対象者の就業状況

(%)

	若年群	中年群	高齢群
学 生	98.9	0.0	0.0
常 勤	0.0	38.4	0.0
自 営 業	0.0	14.4	24.0
パート・アルバイト	1.1	24.8	3.0
仕事はしていない	0.0	16	66.0
そ の 他	0.0	5.6	0.0

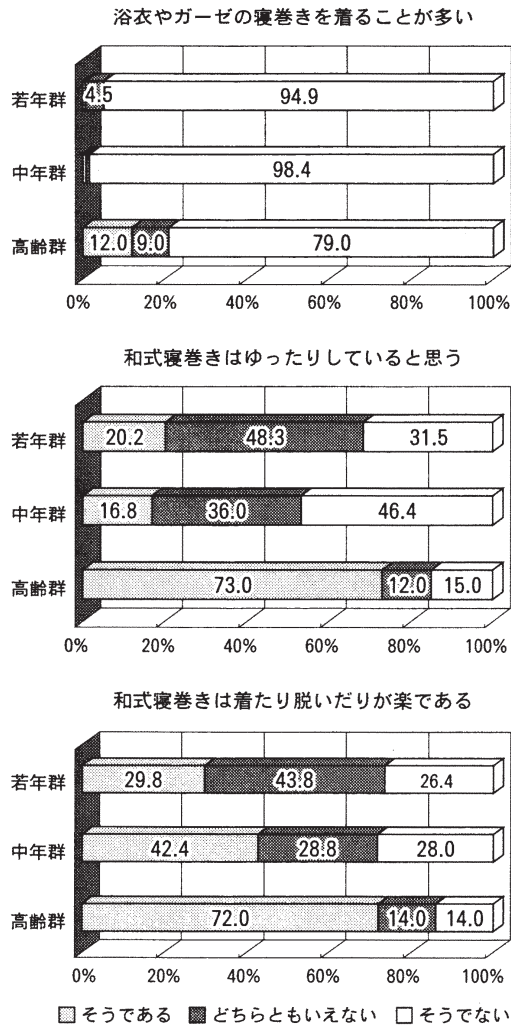


図2 和服およびその着脱と圧迫感

図3にゴムの入った服の着用についての調査結果を示した。高齢群の64.0%が胴部にゴムを入れてあるズボンやスカートを着用することが多いと答え、半々や、少しという回答をあわせると90%以上の高齢者がウエストにゴムをいれたズボンやスカートを着用していることがわかる。これに対し、若年群はゴム入りのズボンやスカートの着用は極めて少なく、中年群でも多いと答えた割合は18.4%にとどまった。一方、ブラウスや上着の袖口にゴムが入っているものが多いと答えた割合は、高齢群でも14.0%とズボンやスカートと比較して少ないが、少し、半々を含むと8割弱の高齢者が袖口にゴム入りの服を着ていることとなる。このように、高齢群の場合、胴部にゴムを入れてあるズボンやスカートの着用が、若・中年群よりきわめて多い実態が明らかとなった。

図4と図5に服の重さと圧迫感についての質問項目のうち、年齢差が顕著な5項目について示し

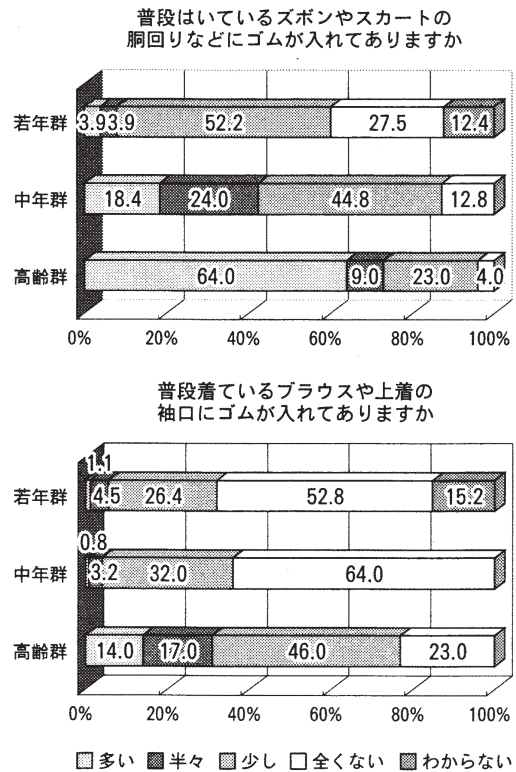


図3 ゴムの入った服の着用

た。高齢群は締付けの強いストッキングははかないと答える割合が64.0%と若・中年群と比較してきわめて高い。また、高齢群はブラジャーについても締付け感があるので付けないとする割合が69.0%ときわめて高い。このほかの項目でも、高齢群は服の重さが気になることがある46.0%、服の胴回りのゴムがきつく感じたことがある41.0%、服の手首のゴムがきつくて気になる24.0%という回答割合であった。この他、高齢者は、ソックスのゴムがきつくて気になることがある35.0%、ガードルの代わりに暖かいロングパンツをはく80.0%、ウエストにベルト芯の入ったズボンやスカートはもっていない22.0%と、いずれも中・若年群より高い回答割合であった。高齢群は、ブラジャーやガードル、ストッキングなどの圧迫感のある服を着用しない、そして、服の重さや、ウエストのゴムや、袖口やソックスのゴムの圧迫感を気になる傾向にあるという、高齢者の衣服の圧迫に対する意識が明らかとなった。

図6におしゃれに対する意識についての調査結果の一部を示した。高齢者は流行にとらわれず長く着られる服が好きであると答えた割合が71.0%と多い。流行にとらわれない服を好むのは中年群も同様で、66.4%、これに対し若年群は56.2

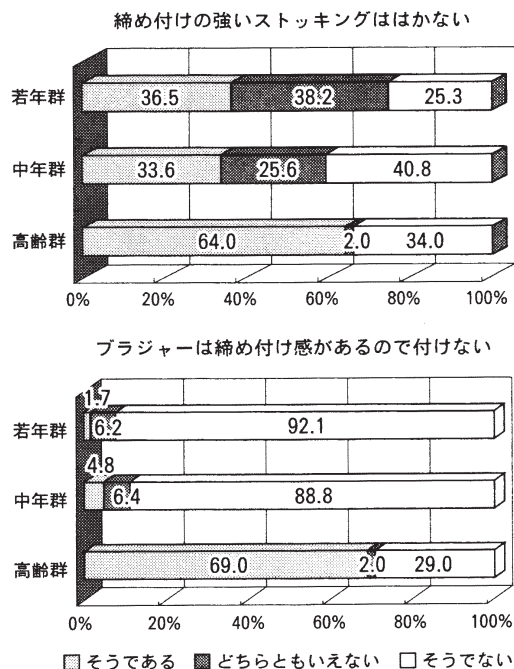


図4 圧迫感のある下着等の着用

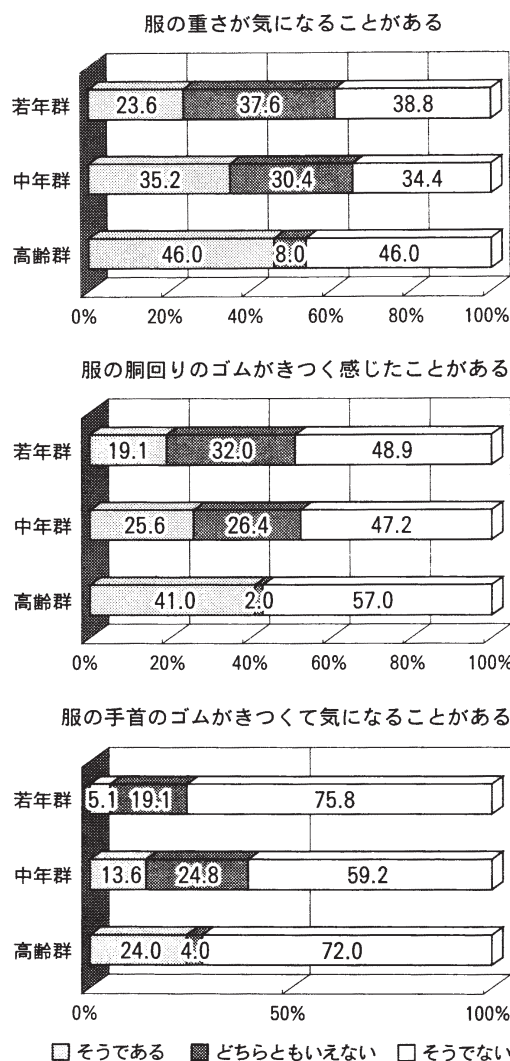


図5 胸回りや手首のゴムの圧迫感

%と半数以上であったが、年齢により流行に対する意識が異なることがわかる。このほかの項目では、高齢群の回答割合は周囲の人とできるだけ同じ服装がよい28.0%、おしゃれに気を配る57.0%、日常生活で服装のことを話題にするほうである40.0%であり、高齢者はおしゃれに関心があり気をくばるが、ほかの人とかけ離れた目立つ服装はしたくないという傾向が見られた。さらに、高齢群の回答割合はスカートよりズボンを好んではくが90.0%、動きやすい伸び縮みする素材を選ぶようにしているが76.0%であり、ほかの群と比較して、機能的なズボンやストレッチ素材を選択している傾向が見られた。

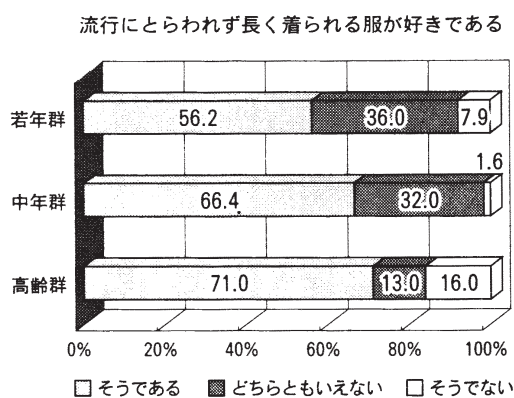


図6 おしゃれに対する意識

図7に皮膚と服の圧迫との関係についての調査結果を示した。皮膚と服の圧迫との関連についての質問項目では、高齢者の場合皮膚の乾燥しがちになり、圧迫によるかゆみなどが生じやすいのではと推察された。しかし、皮膚が乾燥しがちと答える割合は若年群でもっとも多く、62.9%、ガードルやブラジャー等の下着がきつくて、皮膚がかゆくなったことがあるという回答割合は中年群で46.6%と最も多く、服の素材がごわごわして、皮膚がかゆくなったことがあるのも若年群で44.7%と最も多く、高齢群では服の圧迫によるかゆみの経験は少ないと推察された。これは、著者らの調査でも、中年群は若年群よりガードルを着用する割合が高く⁵⁾、このため、ブラジャーやガードルの圧迫によりかゆみを生じる割合が高くなったと推察される。このように、高齢群は圧迫のあるストッキングやガードルをはかない傾向にあり、胸部のゴムについても気になり、配慮しているためか、服の圧迫による皮膚の損傷の経験が少ないとも推察された。

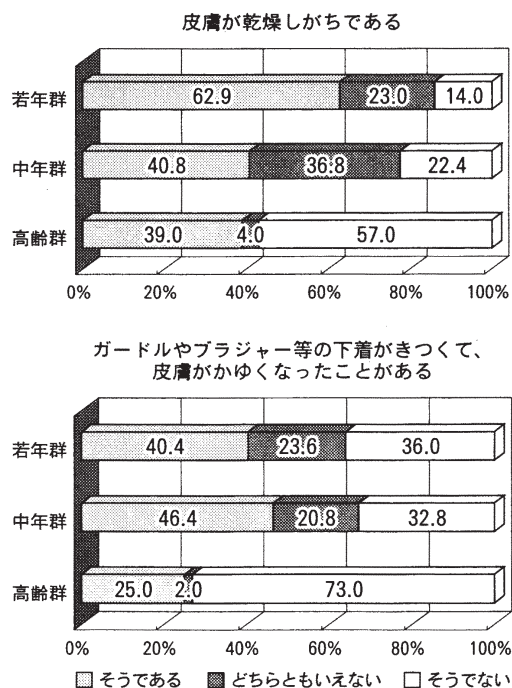


図7 皮膚と服による圧迫との関連について

3. 2 日常着の胸部被服圧

図8に若年群と中高年群の胸部被服圧測定結果を示した。胸部前では、若年群 11.7gf/cm²、中高年群 19.6gf/cm²、胸部脇では若年群 17.1gf/cm²、中年群 25.0gf/cm²の被服圧であった。中高年群の被服圧は若年群より約 10gf/cm²大きい傾向にあり、両者の被服圧に 1%の水準で有意差が認められた。被服圧が前や脇より小さい後面では中高年群の被服圧は若年群より高い傾向を示すが有意差は認められなかった。

圧感覚評価の平均値をみると、中年群は胸部前、脇、後面ともに 0.0、若年群も胸部前、脇、後面ともに 0.4 であり、いずれもちょうどよいと感じ

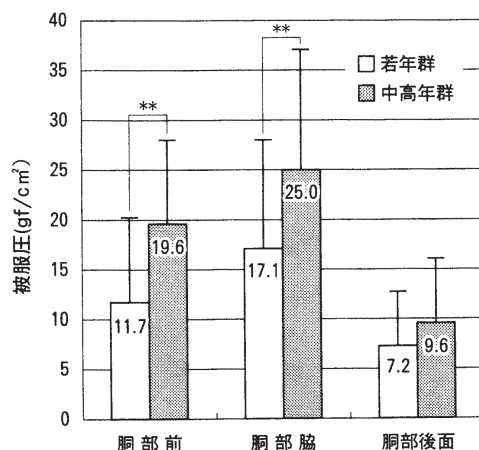


図8 若年群と中高年群の胸部被服圧

ていることがわかる。このことより、本実験の被験者は若・中高年群ともに、日常着として圧迫感を感じないズボンやスカートを選択していると推察される。なお、肥瘦の傾向を示す BMI は、若年群は 16.9、高齢者は 24.4 であり、BMI と被服圧との関係の有無について検討したが、両者の関係は示されなかった。

このように、若年群の胸部被服圧が小さい要因として、高齢群と若年群の着装の違いが上げられる。調査結果からも高齢群はウエストにゴムの入ったズボンやスカート、特にズボンを好み、服装の流行の経緯から見ても、ズボンやスカートがウエストまであるジャストウエストのものを好む傾向にあると考えられる。これに対し、若年群の場合、ゴムの入ったズボンやスカートを着用しない、ズボンのウエスト部分もゆるく、ジャストウエストではないものを選択する傾向にある。

本調査の結果、高齢群はズボンを好み、しかもウエストにゴムの入ったズボンやスカートを多く持っていること、そして、服の重さや、ウエストや手首のゴムの圧迫を気にしていることが明らかとなった。また、このような衣服の選択のため、被服圧も若年群より大きい結果となったが、高齢群は 20～25gf/cm²前後の被服圧をちょうどよいと感じていた。ズボンやスカートのウエストのゴムは、これらを胸部に保持するために必要なものである。このような場合、皮膚の弾力性が低下した高齢者にとって、どの程度の被服圧が妥当であるかについての検討は行われていない。今後、高齢者のためのウエストや手首にゴムを使用した衣服の設計について、圧迫感に着目した検討の必要性が示唆された。

4 要 約

本研究では、高齢者の快適な衣生活のための基礎的資料を得ることを目的として、若年および中高年女子の圧迫感のある衣服の着用について、ウエストや手首にゴムをいれた衣服の着用とこれに対する圧迫感についての調査、および高齢者日常着の胸部被服圧の測定を行った。

和服およびその着脱と圧迫感については、高齢群は冠婚葬祭の時に和服を着ることが多く、若年群は地域のお祭りなどで和服を着ることが多い。高齢群は、和式寝巻きは着脱が楽で、着心地が良いと感じている人が多い傾向にあった。

ゴムが入っている服の着用、服の重さと圧迫感については、高齢群は、若年、中年群よりウエストや手首にゴムを使っている衣服を多く持っているが、ブラジャーや、ガードル、締め付けのあるストッキングは、着用しない人が多い。また、高齢群は手首やウエストのゴムが気になり、衣服の重さも気になることが多い傾向にあった。

おしゃれに対する意識は、高齢群はおしゃれに関心があり、気をくばるが、ほかの人とかけ離れた目立つ服装はしたくないという傾向が見られた。また、高齢群は機能的なズボンやストレッチ素材を選択する傾向にあった。

中高年群の日常着の被服圧は、前、脇、後ろいずれも、若年群より大きい傾向にあった。

高齢者がウエストや手首にゴムを入れた服を多く持っているという現状をふまえ、高齢者のための服の設計について、圧迫感に着目した検討の必要性が示唆された。

謝 辞

本調査にご協力いただきました山梨県立女子短期大学同窓会、富桜会、本学卒業生諸氏に感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 岡田宣子：高齢者の衣生活行動の現状と要望点—被服の調達と選択行動を中心として—、日本家政学会誌、Vol.51、No.7、595-603 (2000)
- 2) 岡田宣子：高齢者の加齢に伴い生じる身体機能の変化と被服に求められる要件：日本家政学会誌、Vol.51、No.9、817-824 (2000)
- 3) 箱井英寿、上野裕子、小林恵子：高齢者の感情・行動意欲の活性化に関する基礎研究（第1報）～着装時における高齢者の感情・行動意欲の変化に関わる要因の検討～ 繊維製品消費科学誌、Vol.42、No.11、752-759 (2001)
- 4) 仲西敬子：高齢婦人の衣生活に関する研究、香川短期大学紀要、第22号、1-9 (1994)
- 5) 斉藤秀子、雨宮邦子：「ボディコンシャス」と下着に関する意識の年代による相違—山梨県的女子短期大学生および卒業生を対象とした事例報告—服飾文化学会誌 Costume and Textile Vol.2、No.1、73-79 (2002)

(2004年12月1日受理)

